

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	愛知県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	名古屋市立千成小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	3	2	0	14	20
児童数	75	56	65	79	84	61	0	420	

研究の概要

1 研究主題

生き生きと算数学習に取り組む千成っ子の育成

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1年～6年・算数 子どもの理解度に差が出やすい教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度

テーマ 「算数っておもしろい」  
 ー基礎・基本の定着と基本的な指導法の工夫ー

研究の見通し  
 考える活動を重視し、算数的活動を工夫すれば、児童が学ぶ楽しさや分かる喜びを味わわせることができる。

研究の内容・方法

- 学習活動の工夫  
 基本的な学習過程を設定して自力解決の時間を確保したり、算数的活動を積極的に取り入れたりする。
- 教材教具の開発  
 児童が意欲をもって取り組める教材・教具の開発を進める。
- 少人数指導の導入  
 少人数・TT指導を導入し、支援や指導の在り方について探る。

平成15年度

テーマ 「一人一人違っていい」  
 ー個の実態に応じたきめ細かな指導の工夫ー

研究の見通し  
 少人数・TT指導の形態を工夫するとともに、発展的・補足的な学習の導入など指導方法を工夫すれば、個に応じて問題解決する力を高めことができる。

研究の内容・方法

- 指導形態の工夫  
 学年や単元に応じた少人数・TT指導の在り方について探る。
- 指導方法の工夫  
 児童の学習状況に応じた教材・教具の開発を行い、発展的・補足的な学習を進

	<p>める。また、つけ法や復唱法などを取り入れて児童の実態を把握するとともに、把握した実態を指導に生かすことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎技能の習得 業前に学習タイム（千成タイム）を設定し、計算などの基礎技能の習得を図っていく。</li> <li>評価の工夫 児童が自己評価できる場を設定し、学習の跡がたどれるようにする。</li> </ul>
--	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 「算数にチャレンジ」 －主体的に学ぶ児童を育てる指導の工夫－</p> <p>研究の見通し 発展的・補足的な学習を工夫・改善するとともに、児童の自己評価のさせ方を工夫したりしていけば、主体的に学ぶ児童を育てることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法の工夫・改善 発展的・補足的な学習についての基本的な考え方を見直し、指導の体制や方法を工夫・改善する。</li> <li>評価の工夫 児童が自己評価をすることで自分の現在の学習状況を把握し、以後の学習に生かすことができるような評価方法を工夫する。</li> </ul>
--------------------	---

### (3) 研究体制

推進全体会	全職員
推進委員会	校長・教頭・教務・推進委員
指導法部会（発展的・補足的な学習の進め方・教材作成など、指導法の研究）	教頭・委員長・各学年代表
千成タイム部会（基礎技能向上のための業前の学習タイムの推進）	校長・委員長・各学年代表
学年部会（各学年の推進計画と授業実践）	各学年

平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1 研究成果

<p>平成14年度4月と本年度4月に実施したNRTでは、どの学年も伸びが見られ、知識・技能の面で学力が定着しつつあることがわかる。なお、来年度4月にもNRTを実施し、学力の伸びについて調べていきたい。</p> <p>平成14年度と本年度の児童へのアンケートで、算数の学習が「好き」・「やや好き」とする児童がどの学年も増えている。本年度だけ見ても、多い学年（3年）で約95%、少ない学年でも、約68%が「好き」「やや好き」と答えており、意欲的に算数の学習を進めていることがわかる。</p> <p>本年度の児童へのアンケートで「どんなことができるようになったか」について「いろいろな考え方ややり方ができるようになった」「自分の考えを発表できるようになった」ことをあげている児童がめだっている。自ら考え自ら学ぶ力の育成を目指してきた成果ではないかと考えられる。</p>
---

## 2 今後の課題

本年度の2学期末テスト(名古屋市数学研究会実態調査)の結果、「思考」「表現・技能」については市平均を上回っている。しかし、「知識・理解」の面では、市平均にとどまってお  
り学年によっては平均をかなり下回っている。

授業の段階では学習内容をよく理解しているが、すぐに忘れてしまうことや、問題の題意を  
読み取る力がついていないからではないかと考えられる。今後、何度も振り返りながら積み上  
げさせて定着を図っていくことが必要である。

T T指導と習熟度別などによる少人数指導はそれぞれ良さがある。学年や単元などによって  
どちらかを選択するなど、うまく組み合わせしていきたい。

発展的・補足的な学習について、本校としての基本的な考え方にやや曖昧な面があった。  
今後、共通理解を十分図りながら進めていきたい。

「自ら考え、自ら学ぶ力」の育成のためには、自己評価は重要であるが、まだ、その自己評  
価を児童が学習に生かすところまではできていない。今後どのように進めたらよいか明らかに  
していきたい。

### 学力等把握のための学校としての取組

全国的な基準に照らした本校の学力状況を把握するため、4月当初にNRTの実施(年1  
回)

学期末に学習の定着度を図るテストを実施(年3回)

評価規準による日常的な学習の評価の集積

児童の学習に対する関心・意欲を図る、アンケート調査の実施(年3回)

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

#### 公開授業の実施

実施 日時 平成15年11月21日(金)13時45分~

場所 千成小学校

対象 名古屋市内小中学校

予定 日時 平成16年11月9日(火)

ホームページでの情報提供(<http://www.sennari-e.nagoya-c.ed.jp/>)

学校参観の受け入れ

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	レ	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下		7~12学級		
	レ	13~18学級	19~24学級		
	25学級以上				
【指導体制】	レ	少人数指導	レ	T・Tによる指導	
	レ	一部教科担任制		その他	
【研究教科】	国語	社会	レ	算数	理科
	生活	音楽		図画工作	家庭
	体育	その他			
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		レ	有		無